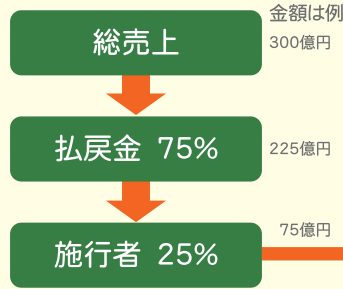


ボートレースの歴史・特色について



日本財団への交付金	約2.6%	6.6億円
活性化資金制度特別分担金	約0.7%	2.0億円
一般財団法人モーターボート競走会への交付金	約1.3%	4.0億円
水面使用料(場内売上+電投売上に対し)	約1.06%	1.8億円
電話投票負担金(電投売上に対し)	約5.83%	3.6億円
地方公共団体金融機構への納付金	約1.0%	1.8億円
開催経費	実費	40.2億円
施行者利益(配分金)※	残額	15.0億円

控除したお金の流れ(構図) 出所:戸田競艇企業団の資料を基に筆者作成

世界で初めてのモーターボートによる国際レースは、1904年イギリスで開催されました。その後、オリンピックでも一時採択されたことがありますが、主に英米で行われるモーターボートレースは長距離対抗レースなどが主なものでした。

日本では、大正・昭和時代の政治家 笹川良一氏の発案により、地方自治体の戦後復興の一環を担う事業として、1951年にモーターボート競走法が設立され、わが国独自の公営競技となりました(現在は他に韓国に1会場あります)。

ボートレース場は、群馬県から長崎県まで全国に24か所あります。海や湖を利用したコースと、戸田競艇場のような人工のコースがあり、淡水・海水・汽水と水の種類も様々です。自然を利用したコースでは、潮の干満や風速など気象がレースに影響するというのも特徴的です。

選手は専門の養成所で1年間の厳しい訓練を受け、国家試験の合格を目指します。事故が命にかかわること、スタート

地点を一路で通過する際にはフライングの罰則が厳しいことなどから、安全や団体責任などが重視されます。定年制はなく、現在最高齢の選手は70代です。女性選手が男性選手と同じ条件下で競うことも特徴で、地方の特色や選手の真剣勝負とともにそれも魅力となっています。休む期間もとりやいため、結婚・出産後も長く活躍する女性選手もいます。

ボートレースの売り上げ金のうち、総額の75%が払戻金となります。控除した25%が開催経費、関連団体に交付、残額が戸田市へ競艇事業収益金という名目で納入され市民サービスに反映されます(図内※)。1997年までは総売上の5%であった収益率は1997年頃から1-2%と推移しており、今後どのように立て直していくのが課題のひとつです。

近年は、ボートレースを開催する自治体間で勉強会が行われ、フードコートなどに各自治体の特色を出すなど、さまざまな地域振興策も試みられています。

ご意見・メッセージをお寄せ下さい

FAX送信欄 ▶ 048-434-6801

■お名前(フリガナ) ■ご住所 ■電話番号

-----

-----

-----

防災に! 周知情報を確保しましょう

●戸田市公式フェイスブック  
[ページ名] 戸田市  
[URL] <https://facebook.com/todacity>

●戸田市公式ツイッター  
[アカウント] @toda\_city  
[ハッシュタグ] #戸田市役所  
[名前] 戸田市  
[URL] [https://twitter.com/toda\\_city](https://twitter.com/toda_city)

●いいとだメール  
「市からのお知らせ」「防災・気象情報」「防災行政無線」「防犯情報」などをメール配信

●河川監視カメラ  
ユーチューブで配信

子育て中の方には「予防接種スケジュール管理システム」も便利です。  
戸田市ホームページをご覧ください。



細田まさのり プロフィール

戸田市公立学校PTA連合会会長/戸田市立新井小学校PTA会長/戸田市立新井中学校PTA会長/氷川町会 副会長兼総務部長/埼玉県薬物乱用防止指導員委員/戸田市教育振興計画策定委員会委員/戸田市人権教育推進協議会理事/戸田市青少年問題協議委員/彩の国まごころ団体戸田市実行委員会委員/(株)日本M&Aコンサルタント認定員/日本陸上競技連盟 審判員/戸田シニア野球協会副会長

趣味 スポーツ全般(学生時代は駅伝・競歩で全国大会に出場)・読書・歴史(徳川家康と同じ誕生日)

特技 会計・経営・財務業務等のエキスパート 家族 妻・子(3人)・父母

細田まさのり後援会事務所

〒335-0027 埼玉県戸田市氷川町2-10-2 TEL:048-434-6800 FAX:048-434-6801 Email:hosodamasanori@mist.dti.ne.jp

ホームページで活動を随時報告しています。

細田まさのり 検索 討議資料

# NEW WIND

## 市政報告 第12号

戸田市議会議員  
細田まさのり

新 たなる 成長 夢 へ向かって

ご挨拶

盛夏の候、暑さ益々厳しき折、お変わりなくお過ごしでしょうか。お盆が終わると、とたんに秋の気配が忍び寄ってくるような気がするのは私だけでしょうか。

さて、2019年(令和元年)は選挙イヤーの年で、3月の統一地方選挙埼玉県議会議員選挙からはじまり、7月の参議院議員選挙、8月の埼玉県知事選挙と選挙が続く年であります。このように選挙が続く中、人生100年時代を迎える日本。激動の国際社会。かつてない変化を前に、あたらしいこの国のかたちを皆さんとどう向き合い、どうつくっていくべきかであります。そのためには国や県などに全てをお任せするのではなく、地方自治体ももっと自主・自立・創造と力強くならなくてはなりません。そして何より皆様のご意見とご理解ご協力なくして戸田市の発展はありません。これから更なる戸田市の発展に向け皆様と一緒に頑張りたいと思っています。

末筆ではございますが、まだまだ猛暑がつづきますくれぐれもご健康にお気をつけください。

全力パトロール! 細田まさのり

## 細田まさのりQ&A

Q. 子供の頃、戸田市はどのような街でしたか?

A. 田んぼや畑だらけの街でした。夏にはあちらこちらの田んぼから、蛙の合唱が聞こえていました。

Q. 幼少時からずっとこの街を見続けていく中で、どんな事業やことがらがターニングポイントになったと思いますか?

A. 都内に入る玄関口であるため、物流倉庫関係が多い街です。かつて、戸田市は陸の孤島と言われるほど、交通アクセスが非常に悪いところでありました。昭和63年にJR埼京線が開通したことによってアクセスがよくなり、人口が増加傾向になってきて

おります。

Q. 戸田市と言えば…?

A. 戸田市と言えば、夏の風物詩である、夜空に大きな大輪の花を咲かせる戸田橋花火大会であり、また東京オリンピックで会場になった戸田ボートコースが、象徴ですね。ボートコースに隣接した戸田競艇場での競艇事業の収益金の一部が地方財源を大きく支え、収益金

